

Fusyo Collaboration letter

2月13日 No.43 文責 廣田 秀俊



「学びを調整できる子供」こそが、未来をつくる

本校は、「Think globally, Act locally」を教育理念に掲げ、地域に根ざしながら世界に視野を広げて行動できる「グローバルリーダー」の育成をめざしています。予測困難な時代において子供たちに求められるのは、与えられた課題をこなす力ではなく、自ら課題を見出し、学び方を選びながら前に進み続ける力です。本校の研究は、この力を日々の授業の中でどのように育てるかに向き合ってきました。

本年度の行った研究は「自己調整学習」です。正解のない状況の中で、「何をすべきか」「どの方法がよいか」を自ら考え、調整しながら学ぶ力は、グローバルリーダーに不可欠な力であり、未来を生き抜くための基盤であると捉えています。



本研究では、子供に任せるのではなく、教師が意図的に「選択できる学習環境」を整えることを大切にしてきました。教科書や資料、ICT、友だちとの対話など複数の学習手段の中から、子供たちは「何をを使うか」「誰と学ぶか」「どのように進めるか」を自ら判断します。さらに、「学び合い」や振り返りを通して、自分の学び方を見つめ、次に生かす力を育ててきました。この積み重ねが、子供たちを「学びを設計できる学習者」へと成長させています。



2月7日に実施した公開研究会では、そのような子供たちの姿を多くの教育関係者の皆様にご覧いただくことができました。授業の中では、自分で学習方法を選び、必要に応じて友だちと関わりながら課題に向き合う姿や、振り返りの場面で自らの学び方を語る姿が随所に見られました。参観された先生方からは、「子供が学びの主体になっている」「自己調整学習が具体的な授業の姿として表れている」といった評価の言葉を多数いただきました。また、講師の先生や県・大学関係者の方々からも、本校の研究の方向性と成果について高い評価をいただきました。



本研究で得られた知見は、自己調整学習を授業の中にどのように位置付け、どのような環境を整えればよいのかを具体的に示すものとなりました。子供たちが自ら学びを調整しながら、地域と世界につながる未来を切り拓いていく姿の実現に向けて、これからも実践と研究を積み重ねてまいります。



これまで、多くの保護者の皆様に事前準備や運営にご協力いただきました。皆様の温かいご支援のおかげで、公開研究会を無事に開催することができました。紙面を借りて心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

